



©2005 石塚真一/小学館

第 139 号(平成 31 年 2 月 14 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

1 月 5 週は、3 件の遭難が発生し、うち 2 件はバックカントリースキーによる遭難です。バックカントリーでの滑走は、地形、気温、雪質、前日までの積雪量等高度な判断が求められます。できるだけ経験者と複数で滑走するとともに、地図を確認し、万が一の際は、自分たちで対応できる技術を身につけてから滑走しましょう。登山についても、気象判断は非常に重要です。悪天候の際は、救助活動も長期化する場合があります。万が一に備えて、ツェルト、防寒具、着替え、ストーブ、非常食等ビバークできる装備を携行してください。

平成 31 年中の山岳遭難発生状況(平成 31 年 1 月 1 日～2 月 3 日)

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
平成 31 年	12	1		3	13	17	4
平成 30 年	9	1		3	9	13	4
前年同期比	+3	±0	±0	±0	+4	+4	±0
内)BC	+2	±0	±0	±0	+4	+4	±0

山域別発生状況

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	1	8.3%			1	1
	後立山	7	58.3%			1	12
	その他		0.0%				0
	計	8	66.7%	0	0	2	13
中央アルプス		0.0%					0
南アルプス		0.0%					0
ハヶ岳連峰	1	8.3%			1		1
その他の山岳	3	25.0%	1			2	3
計	12		1	0	3	13	17

態様別発生状況

区分	件数	件数 比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	2	16.7%			2		2
転倒	1	8.3%	1				1
病気		0.0%					0
道迷い	5	41.7%				9	9
落石		0.0%					0
雪崩	1	8.3%			1		1
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷		0.0%					0
不明・他	3	25.0%				4	4
計	12		1	0	3	13	17

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人) 比率	女性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下				1	1	10 62.5%					0	0 0.0%	1	10人 58.8%
20代	1			6	7						0		7	
30代			1	1	2						0		2	
40代			1	2	3	3 18.8%				1	1	1 100.0%	4	4人 23.5%
50代					0						0		0	
60代			1	1	2	3 18.8%					0	0 0.0%	2	3人 17.6%
70以上				1	1						0		1	
計	1	0	3	12	16		0	0	0	1	1		17	
比率	94.1%						5.9%							

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
2月2日	北アルプス 白馬乗鞍岳	30	男	雪崩	負傷	バックカントリースキー中 、雪崩に巻き込まれ、負傷
<p>2日、北アルプス白馬乗鞍岳において、バックカントリースキーをしていた男性30歳が、雪崩に巻き込まれ負傷する山岳遭難が発生し、大町署山岳遭難救助隊らが救助しました。</p>						
2月3日	北アルプス 唐松岳	30	男	道迷い	無事救出	単独で下山中、悪天候のため道に迷い、行動不能
<p>3日、北アルプス唐松岳において、男性30歳が道に迷い行動不能となる山岳遭難が発生し、4日、県警山岳遭難救助隊、北アルプス北部地区遭対協白馬班が救助しました。</p>						
2月3日	栂池高原	64	男	道迷い	無事救出	単独で バックカントリースキー中 、道に迷い、行動不能
<p>3日、栂池高原付近でバックカントリースキーをしていた男性64歳が、道に迷い行動不能となる山岳遭難が発生し、4日、大町署山岳遭難救助隊、北アルプス北部地区遭対協小谷班が救助しました。</p>						

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝